

1 V-BALLER

進化した野球シミュレーションシステムが 日々のトレーニングにエポックをもたらす

提供開始以来、野球のトレーニングに広く活用されている野球シミュレーションシステム「V-BALLER」。複数のプロ球団のみならず、2022年4月からはアマチュアへのサービスも開始している。2023年3月号の特集に続き、今回は野球界におけるIT技術活用の有効性、隠岐諸島での活用事例、追加されたダッシュボードの新機能と今後への展望などを紹介する。

V-BALLERなどIT技術が 野球界に与える影響

NTTデータはVRを活用したトレーニングシステムを開発し、国内外のプロチームへ提供することで、プロ野球選手の打撃力向上をサポートしてきた。さらに、トレーニング機能を強化し、2022年4月には提供対象をアマチュアにも拡大している（『ビジネスコミュニケーション』2023 Vol.60 No.2 参照）。

これまで野球界のトレーニングは、質より量という傾向があり、監督やコーチの経験に基づく指導が第一。ITを駆使した練習やデータ活用はあまり普及していなかった。

「私も野球経験者です。合理性よりも経験を重んじる野球界の傾向を

身をもって感じてきました。近年、国内外、プロアマを問わず、ITを活用したデータ分析や動作解析を取り入れた練習や対策が増えています。V-BALLERも野球界の日々の練習に新しい価値を提供するツールの1つになると考えています」（服部氏）。

VR空間でのリアルな投球映像で苦手な球種・コースを反復練習できるだけでなく、後述する「ダッシュボード」を活用することで自分の動作分析をすることも可能。自身の状態/成長/変化をデータで客観的に確認することができる。

V-BALLERの活用で 地理的ハンディキャップ克服

日本海に浮かぶ島根県隠岐諸島。



株式会社NTTデータ
法人コンサルティング&マーケティング事業本部
アセットベースドサービス推進室 SDDX 担当
(前列左より) 西田 琴乃氏、主任 服部 雅之氏
ペイメント事業本部 カード&ペイメント事業部
デジタルペイメント開発室
(後列左より) 東 貴久氏、田畑 博司氏、島崎 俊輔氏

海を隔てて本州から約70kmのこの島に唯一の硬式野球部を持つ島根県立隠岐高等学校がある。「地方創生×スポーツ」を掲げ、取り組んだ「隠岐野球教室」を開始した時点で、部員数はわずか9名。練習試合を組むことすら難しい環境下で、「さまざまな投手・球種・球速の経験値を積む」ためにV-BALLERを活用し、元プロ野球選手によるリモート指導を行った（図3）。同校の硬式野球部監督からは、非常にポジティブな感想が得られている。

「生徒の成長をすごく感じました。プロとアマや、都会と地方の壁がなくなったのがうれしい。レベルの高い経

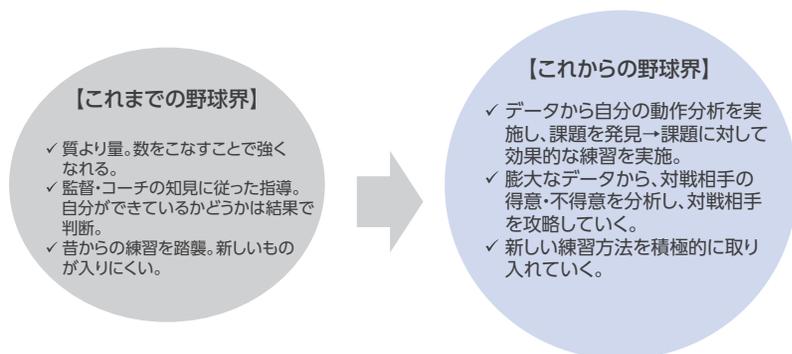


図1 野球界の動向



図2 小中学生向けVR体験授業

験値を積みにくかった生徒にとっていい経験になったと思います」(隠岐高等学校硬式野球部・渡部監督)。

このプロジェクトではさらに、小中学生投手が投げた球をVRコンテンツ化し、体験してもらう取り組みも(図2)。投手本人も実際にVR空間の打席に立って自分の投球を打者目線で確認、振り返りができると共に、周りの選手も同世代の投球を疑似体験することで、より実践的な練習につなげることができる。野球未経験者から「楽しかった」という反応も得られ、野球に対する関心を高めるきっかけとしても効果があった。



図3 元プロ野球選手による隠岐高校硬式野球部へのリモート指導

丹念なヒアリングの結果 2つの機能を開発・追加

アマチュア向けのサービス開始から1年のタイミングで、改めて「野球の能力を高めてもらいたい」という目的に立ち返り、2つの新しい機能を12月にリリース予定である。

ユーザーへのヒアリングを数多く行うなかで見えてきたものは、「選球眼を磨く」「自分の成長を可視化」ことができる機能の必要性。

「選球眼モード」では、バーチャル投手が投げた球を、ストライクとボール、どのコースを通ったか

見きわめることで選球眼を磨くことができる。リアルでは難しい選球眼に特化した現状把握・トレーニングができるうえ、「球の軌跡を見て自分の感覚との差を体感できる」「毎日、同じ球で反復練習できる」「データを蓄積し、苦手なコース・球速・球種がわかる」などメリットは多い。「Webダッシュボード」は、日々のトレーニングの結果を可視化できる機能(図4)で、自身のコンディション把握ができると共に、過去と比較し、自分の成長をデータで確認することもできる。



図4 新規開発ダッシュボード



V-BALLER公式HP QRコード